

湖北地区

奈良・平安時代の遺跡が多く、特に日秀西遺跡(現在は湖北特別支援学校の敷地)では役所の倉庫群が見つかり、当時の地域政治の中心であったことがうかがえます。また、湖北地区を中心に語り継がれる平将門に関する伝承も貴重な我孫子遺産です。



古利根沼(中峠)

元は蛇行していた利根川の流路で、近代の直線化工事で取り残され、沼となりました。取手市の飛び地や波除不動など、川だった名残が見られます。



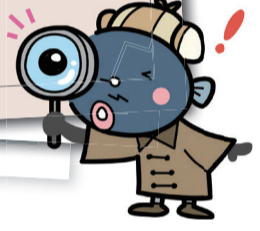
将門神社

将門神社(日秀131)

その名のとおり平将門を祭る、日秀地区一帯に伝わる将門伝承の中心的存在です。千年以上前の人物が「英雄」として人々の生活の中に息づいています。

気象台記念公園(新木野2の5)

布佐出身の気象学者・岡田武松が気象送信所を開設し、気象に関する調査を行っていました。平成11年に閉鎖し、現在は公園として地域の憩いの場となっています。



布佐地区

手賀川と利根川が合流する地域で、布佐平和台にある布佐余間戸遺跡には縄文時代の初期から人が住んでいました。江戸時代の利根川は関東一円の水運の大動脈で、布佐地区はその要所である河岸場として大いに栄えました。また、手賀沼の干拓に取り組んだ旧井上家などの我孫子遺産も残っています。



竹内神社例大祭(布佐1220)

毎年9月に行われる例大祭は、市内随一の規模を誇り、河岸場として発展した布佐の歴史を現在に伝えます。



鮮魚街道

江戸時代、銚子沖で取れた魚を江戸まで運ぶために使われた街道で、布佐河岸を起点とし、松戸まで最短距離で運搬されました。河岸の町として栄えた布佐らしい我孫子遺産です。

市指定文化財

旧井上家住宅(相島新田1)

江戸時代に手賀沼干拓のために布佐に移住し名主となった旧家の邸宅です。江戸後期の名主邸の面影を残しており、布佐や手賀沼の歴史を物語っています。

